

チリ経済情勢報告(2026年6月)

＜概要＞景気は悪化している。

- 消費は一部に弱い動きが見られる。
- 生産は、工業、鉱業ともに減少。企業マインドは悪化している。
- 失業率は上昇している。
- 物価は上昇している。
- 貿易は黒字となっている。
- 銅価格は下落、為替はペソ安傾向、株価は上昇で推移している。

先行きについては、財政・税制などの国内政治動向及び米国の通商政策、中東情勢の影響等を含む世界経済情勢に留意する必要がある。

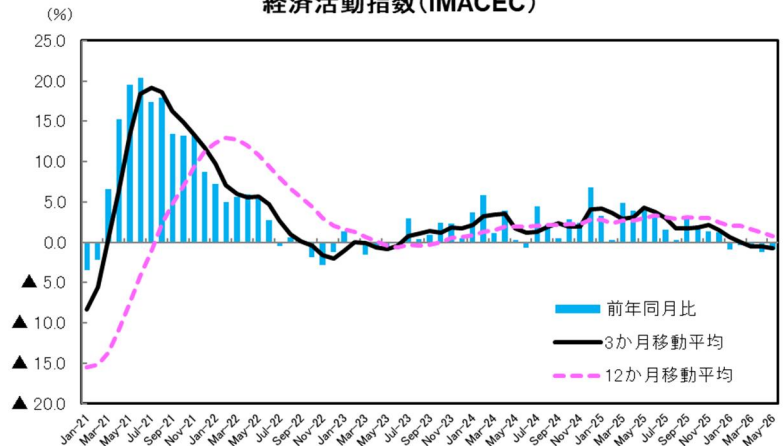
1. 経済指標

(1) 経済活動指数(IMACEC)

－前年同月比▲0.9％－

5月のIMACECは、前年同月比▲0.9％(季節調整済前月比は▲0.2％)となった。営業日数は1日少なかった。鉱業は前年同月比▲11.6％、非鉱業部門は同0.7％であった。季節調整済前月比では、鉱業は0.7％、非鉱業部門は▲0.3％となった。

経済活動指数(IMACEC)



(2) 消費－一部に弱い動きが見られる－

① 5月の商業活動指数(実質、INE公表)は、前年同月比1.6％、同指数の小売業(除く車)は同4.6％となった。

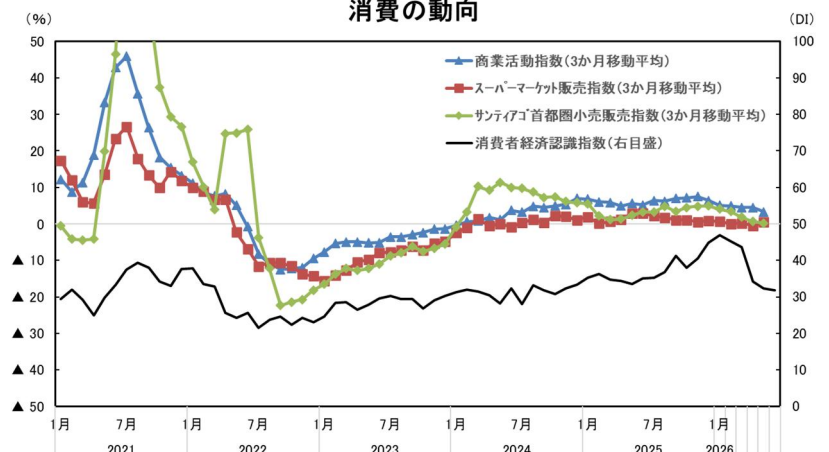
② 5月のスーパーマーケット販売指数(実質、INE公表)は、前年同月比2.6％となった。

③ 5月のサンティアゴ首都圏州小売販売指数(チリ商工会議所公表、既存店、暫定値)は、前年同月比1.8％となった。

④ 6月の消費者経済認識指数(IPEC、GfK Adimark公表)は31.8(前月差▲0.5)、個人の景気認識(現状)は33.0(同▲0.2)と、引き続き50(中立点)を下回っている。

⑤ 6月の新車販売台数は、2万6,576台(前年同月比9.5％)となった。

消費の動向



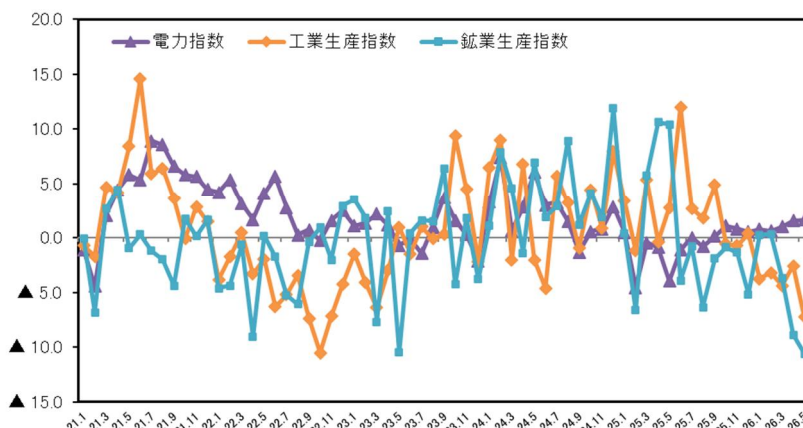
(3) 鉱工業生産、電力・工業、 鉱業ともに減少

5月の工業生産指数は、前年同月比▲7.2%となった。セクター別では石油派生製品が増加（寄与度0.3%）、食料品が減少（同▲3.6%）に寄与した。

5月の鉱業生産指数は、前年同月比▲10.6%、銅生産量は同▲12.9%となった。

5月の電力指数は、前年同月比1.7%となった。

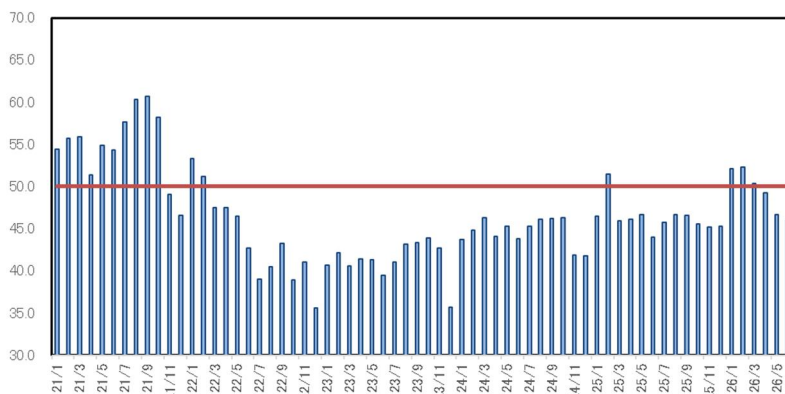
(前年同月比、%) 鉱工業生産・電力



(4) 企業の業況判断－悪化－

6月のIMCE（企業業況判断指数）は46.0ポイントで、前月差▲0.7ポイントとなり、3か月連続で中立点を下回った。内訳を見ると、鉱業が52.5（同0.8ポイント）、商業が51.3（同▲0.7ポイント）、製造業が44.7（同▲1.9ポイント）、建設業が34.5（同0.2ポイント）となった。

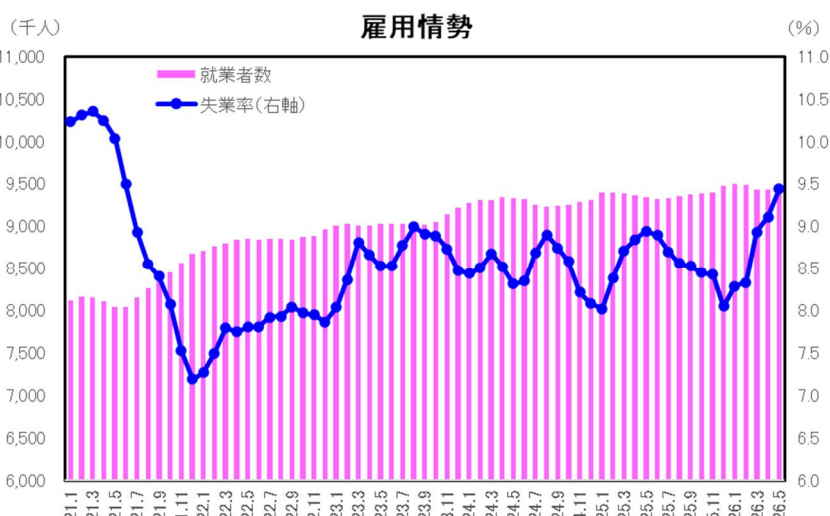
(ポイント) 企業業況判断指数(IMCE)



(5) 雇用－失業率は上昇－

3～5月期の失業率は9.4%（前年同期差0.5%）と、高い水準にある。労働力人口は13万3,552人増加（前年同期比1.3%）、就業者数は7万160人増加（同0.8%）し、失業者数は6万3,392人増加（同6.9%）している。就業者数を職業別にみると、製造業が前年同期比寄与度0.5%と増加に寄与し、農林水産業が同▲0.3%と減少に寄与している。

5月の賃金（速報値）は、名目は前年同月比7.3%、実質は同3.2%となった。

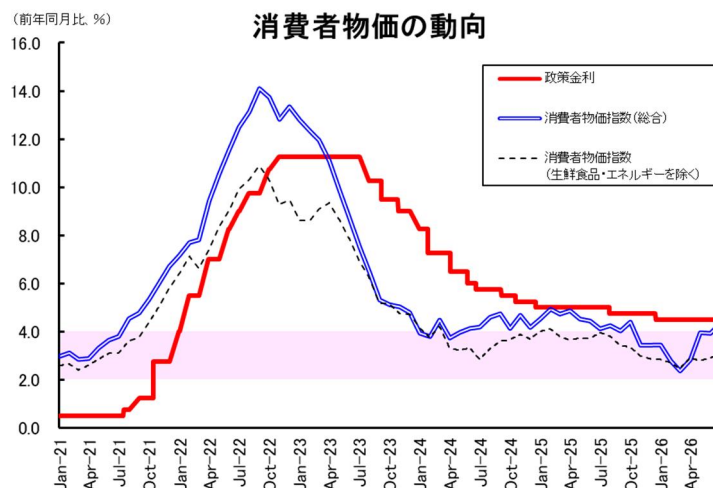


(6) 物価－上昇している－

6月の消費者物価指数(総合)は、前月比は▲0.0%、前年同月比は4.3%となった。品目別に前年同月比の動きを見ると、運輸(8.6%)、レストラン・ホテル(6.5%)等が上昇した。なお、生鮮食品・エネルギーを除く指数は、前月比▲0.1%、前年同月比3.1%であった。

中央銀行アンケート(7月)によるインフレ期待は、1年後:3.0%(前月3.1%)、2年後:3.0%(前月3.0%)となっている。

5月の生産者物価(全産業)は、前月比2.8%、前年同月比は20.5%となった。鉱業(前年同月比35.0%)、電気・ガス・水道(同5.0%)等が上昇した。

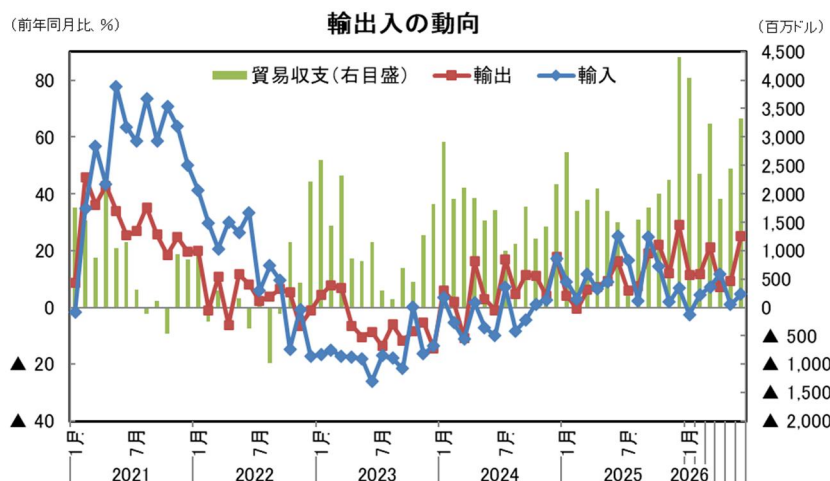


(7) 貿易－黒字となっている－

① 6月の輸出額(FOB)は、107.9億ドル(前年同月比25.1%)となった。内訳を見ると、鉱業品69.5億ドル(同25.8%)(輸出額全体の64.4%)、農林水産品5.1億ドル(前年同月比5.3%)(輸出額全体の4.7%)、製造業品33.3億ドル(前年同月比27.1%)(輸出額全体の30.9%)となった。鉱業品のうち、銅は58.7億ドル(前年同月比17.6%)(鉱業品輸出額全体の84.4%)となった。

② 6月の輸入額(FOB)は、74.7億ドル(前年同月比4.7%)となった。内訳(CIF)は、消費財20.5億ドル(同1.2%)、中間財44.3億ドル(同12.8%)、資本財15.4億ドル(同▲9.5%)となった。

③ 6月の貿易収支(FOB)は、33.2億ドルの黒字となった。



(8) 対日・中・韓・米貿易

① 対日貿易(FOB): 6月の貿易額は、輸出額8.6億ドル(前年同月比42.1%)、輸入額1.4億ドル(同10.6%)、貿易総額では10.0億ドル(同36.6%)となった。

② 対中貿易(FOB): 6月の貿易額は、輸出額37.0億ドル(前年同月比18.5%)、輸入額19.4億ドル(同▲0.8%)、貿易総額では56.3億ドル(同11.1%)となった。

③ 対韓貿易(FOB): 6月の貿易額は、輸出額4.2億ドル(前年同月比▲14.5%)、輸入額1.1億ドル(同▲23.1%)、貿易総額では5.3億ドル(同▲16.4%)となった。

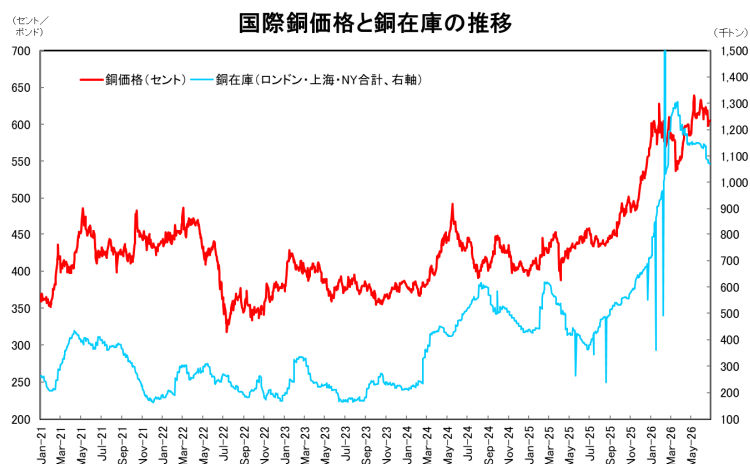
④ 対米貿易(FOB): 6月の貿易額は、輸出額18.6億ドル(前年同月比24.0%)、輸入額14.3億ドル(同13.4%)、貿易総額では32.9億ドル(同19.2%)となった。

2. 市場の動き

(1) 国際銅価格－下落－

6月の国際銅価格は、1ポンド6.27ドル(1日)で始まった。月末には6.05ドル(30日)と前月末比▲2.0%で終了した。

6月の銅在庫は、114万4,966トン(1日)で始まり、月末には106万9,448トン(30日)と前月末より減少した。



(2) 為替－ペソ安傾向－

6月の為替は、1ドル893ペソ(1日)で始まった。その後、ペソ安傾向で推移し、月末には921ペソ(30日)と前月末差30.2ペソのペソ安で終了した。



(3) 株価－上昇－

6月のIPSA値(サンティアゴ主要株式指数)は、10,626ポイント(1日)で始まった。その後一時下落ののちに上昇し、月末には10,840ポイント(30日)と前月末比0.5%で終了した。



3. 経済トピックス(報道等情報)

(1) 中央銀行による金利の維持及び金融政策報告書の公表：中央銀行発表

●金融政策決定会合の結果

6月16日、チリ中央銀行は、政策金利を4.50%に据え置く旨を公表した。

チリ中央銀行理事会は、金融政策決定会合を開き、政策金利を据え置き、4.50%を維持することに合意した。この決定は全会一致で行われた。政策金利は、2022年10月の金融政策決定会合において11.25%まで引き上げられた後、2023年7月から利下げが開始され、2025年12月の会合において4.50%に引き下げられていた。

対外面では、中東紛争が依然として最大の注目点となっている。原油価格の上昇は、様々な経済圏における実質インフレ率や予想インフレ率に影響を及ぼしているが、概して世界経済の活動は堅調さを維持している。こうした状況下において、各国の中央銀行は慎重な姿勢を維持しており、欧州中央銀行（ECB）や日本銀行など一部の中央銀行は、政策金利の引上げを実行した。

米国とイランの間で新たな停戦覚書への署名がなされたとの発表を受け、原油価格は1バレル当たり80米ドルを若干下回る水準（WTI・ブレント平均）まで下落した。2年先物契約の価格の下落幅は、これに比べてかなり限定的である。チリを含む金融市場は、この発表に好感を持って反応し、株式市場は上昇し、米ドルは全体的に下落した。ただ、この紛争の展開は、和平合意をめぐって絶えず浮き沈みを繰り返してきたことから、今後の情勢の推移を引き続き注視し、インフレ見通しへの影響を評価していく必要がある。なお、銅価格は引き続き1ポンド当たり6米ドルを上回っている。

チリ国内の経済活動については、2026年第1四半期は経済活動が縮小し、3月の金融政策報告書（IPoM）の予測を下回る結果となった。支出面から見ると、民間消費は引き続き堅調であり、政府消費も大幅に回復した一方で、総固定資本形成は鈍化した。労働市場においては、雇用創出が低調な状況下で失業率が上昇している。今後の見通しとしては、公共支出の牽引力が強まる一方で、ファンダメンタルズが弱まった家計消費の勢いは鈍化すると見込まれている。また、投資については、2026年は下方修正されるものの、中期的な見通しでは増加が見込まれている。

中東紛争の影響により、予想どおりインフレ率は急速に上昇した。5月の消費者物価指数の上昇率は、燃料価格の高騰に牽引され、前年同月比3.9%に達した。変動の激しい項目を除いた消費者物価指数は、ここ数か月間大きな変化を見せていない（5月は前年同月比3.2%）。経済予測調査（EEE）における2年後の予想インフレ率は3%、金融事業者調査（EOF）では3.1%となっている。

マクロ経済は、依然として通常より高い不確実性にさらされているものの、インフレに関するリスクは徐々に均衡しつつあると見込まれる。中東紛争は依然として完全に解決されておらず、世界の石油供給も正常化していない。他方で、経済活動の動向は主に一時的な供給要因の影響を受けており、需要の見通しに大きな変化はないものの、家計消費の決定要因のいくつかは、以前ほど好調な動きを見せていない。したがって、政策金利の今後の動向については、情勢の推移を踏まえ、金融政策決定会合ごとに評価していくことになる。チリ中央銀行理事会は、2年後の見通しにおいてインフレ率を3%に収めるという目標を達成するため、必要な決定を行うことを改めて表明する。なお、次回の金融政策決定会合は、7月27日及び28日に開催予定である。

●金融政策報告書（IPoM）における経済情勢分析

チリ中央銀行は、6月17日に公表した金融政策報告書（IPoM）において、チリ経済の現状を以下のとおり分析している。

マクロ経済について、2026年第1四半期は経済活動が縮小し、3月の金融政策報告書（IPoM）の予測を下回る結果となった。これは、主に天然資源に関連する分野の業績によるものであり、特に鉱石の品位低下や一部の鉱山でのメンテナンスに伴う銅鉱業の落ち込みが顕著であった。これに加え、農林・牧畜業及び漁業部門の縮小がサプライチェーンを通じて他の分野にも影響を及ぼした。また、建設業や一部のサービス業も予想を下回る業績となった。今後の見通しについて、2026年の経済成長率は、主に第1四半期の予想外の下振れを受け、1.0%～1.75%（前回予測は1.5%～2.5%）へと下方修正された。その後の経済成長率の見通しは、2027年は2.0%～3.0%（前回予測は1.5%～2.5%）、2028年は1.75%～2.75%（前回予測は1.5%～2.5%）になると予測される。

インフレ率は、中東情勢の緊張による大幅なコストショックを背景に、予想どおりここ数か月で急速に上昇した。消費者物価指数の上昇率は、主に燃料価格の上昇を反映し、5月に前年同月比3.9%（2月は2.4%）まで上昇した。さらに、変動の激しい項目のインフレ率については、5月に前年同月比5.1%に達した。他方で、これまでのところ、インフレの動向は予想通り推移しており、今回のショックの波及効果は過去の平均に沿ったものとなっている。これは、変動の激しい項目を除いた消費者物価指数の上昇率が前年同月比3.2%と前回予測のとおりの水準であることにも表れている。ただし、インフレに関するリスクが均衡しているとはいえ、依然として注意深く監視する必要がある。今後の見通しとしては、2026年末のインフレ率は前回予測よりもやや高くなるものの、2027年第2四半期には3%前後に落ち着くと見込まれている。

内需に関して、民間消費は前期と同様の成長ペースを維持しており、政府消費は力強い回復を見せた。ただ、民間消費に関するファンダメンタルズのいくつかは好ましくない推移を見せている。労働市場では、失業率の上昇の他、雇用創出が低調であること、正規雇用から非正規雇用への移行が進んでいることを示す様々な指標が見られる。また、外部ショックによるインフレの急上昇を背景に、実質賃金の前年比伸び率が鈍化し、消費者の期待に悪影響を及ぼしている。

総固定資本形成（投資）については、特に機械・設備投資において成長の鈍化が見られ、建設・工事投資も依然として主に住宅部門の影響を受け、予想を下回って実質的に横ばいで推移している。

2026年の公共支出について、前回のIPoMにおいて想定されていたよりも増加すると見込まれている。これは、最新の財政報告書（IFP）の内容に沿った支出増加が織り込まれているためであり、今回のIPoMにおける財政支出の想定値は前回報告書よりも対GDP比で1.2ポイント高くなっている。

対外面では、世界経済の活動は予想通りの拡大を見せている。各国におけるテクノロジー分野の活況は、引き続き金融環境、投資及び経済活動を下支えしている。ただし、この傾向は地域ごとにばらつきが見られ、米国やアジアの一部の国々などの新技術の開発に深く関与している経済圏は、その他の地域よりも大きな恩恵を享受している。また、インフレに関しては、チリと同様に、原油価格上昇の影響によりインフレ率が上昇している。

景気の回復力が持続する中、インフレへの懸念が高まったことで、一部の経済圏では

金融政策の見通しがより引き締め方向に転じている。大半の中央銀行は、今後の政策決定に向けて引き続き慎重な姿勢を示しており、いくつかはインフレの上方リスクを強調している。特に注目されるのは米国であり、直近の経済指標によりフェデラル・ファンド金利（FF金利）の引上げに対する期待が強まったほか、欧州中央銀行（ECB）も6月の会合において政策金利を引き上げた。主要経済国では、インフレや金融政策の見通し、財政不均衡の拡大を受けて、長期金利の上昇が続いている。